

地域自主組織「支え合いのまち御来屋」
学生と企画！ 御来屋駅で山陰鉄道写真展



令和3年12月18日（土）19日（日）の2日間、鳥取大学鉄道研究会・鳥取大学地域価値創造研究教育機構・支え合いのまち御来屋の合同チームにより、山陰本線御来屋駅で鉄道写真展を開きました。

山陰最古の駅舎「御来屋駅」の活用と御来屋地区の活性化を目指して2年前に話し合いをしましたが、コロナウィルスの影響で実行できませんでした。その後、状況が沈静化した今回、改めて大学から御来屋駅での写真展について提案があり、共同で実施しました。

当日は共催者に加え、鳥根大学鉄道研究会の学生の協力もあり、盛り上げていただきました。

両日とも寒波襲来で積雪もあり、気温も低かったのですが、町内の方、国鉄・JRのOB、小さな子ども連れの親子、松江・米子駅のポスターを見て、遠方からわざわざ御来屋駅にいられた方々など、200人を越える方に来場いただき、鉄道を愛する人の熱意を感じました。

接客に不慣れた学生もだんだんと自分から声掛けが出来るようになり、色々な質問に対応していました。



展示された写真をカメラに収めたり、昔の思い出話が弾んだり、懐かしい時間を過ごしていただけたことと思います。来場記念品として渡された記念入場切符は、鳥大生たちが昔の切符を真似て作ったもので、一枚ずつ切符切りで切りながら渡しました。普段見ない切符に子どもた

ちが大切に握りしめていたのが印象的でした。



また、週末限定の観光列車『あめつち』が1日2回約3分御来屋駅に停車するのに合わせて、訪れた人と一緒に到着を待ち、国鉄時代の駅員の制服を着たり、横断幕を掲げたりして出発を見送りました。

地元の人に山陰最古の駅舎御来屋駅の存在を知ってもらうのいい機会になったと思います。地域の宝を大切にし、磨き上げることも地域活性化と考えています。

「鳥取大学鉄道研究会
鯉江祥平さん談」

今回、1970年代の懐かしい汽車、現役で活躍する列車など、山陰を駆け抜けてきた鉄道写真を展示しました。このほか、ホームで会話をしている国鉄時代の鉄道員、寝台列車を見送る着物姿の女性など、当時の人々の日常をうかがえる写真も併せ

て展示しました。

年配の方から当時の鉄道に関する話をお聞きしたり、親子で来場された方と一緒に列車の送迎をするなど、様々な世代の方から鉄道や御来屋駅への思いを知ることができました。今後の観光による地域づくりのきっかけになれば良いと思います。



▲プレートを持つ鯉江さん（中央）

今回で終わらず、今後も学生とともに活動を継続して進めていきたいと考えています。ご興味のある方、ぜひ一緒に活動しましょう！

【支え合いのまち御来屋】

sasaesai.mikuriya@gmail.com